

志賀原子力発電所について

敷地内シームについて当社意見書を提出

原子力規制委員会による第7回評価会合(7月17日)において示された評価書案に対し、当社の意見を取りまとめ、8月10日、有識者会合に意見書を提出しました。

評価書案は、シームが「明確な根拠は認められないが、変位・変形を生じた可能性は否定できない」とまとめられましたが、当社の調査結果を考慮されたものとは考えられません。

当社は、国の指示に基づき3年にわたり追加調査を行い、2,000ページ以上の資料を有識者会合に提出してきました。

当社の科学的な調査データを総合的に検討すれば、**敷地内シームは後期更新世以降(12万~13万年以降)には活動していないと判断でき、「将来活動する可能性のある断層等ではない」と評価**できると考えています。

建設当時の国の審査で耐震安全上問題ないのご判断いただいています

敷地内シームは、建設当時、国による安全審査で直接ご確認いただき、**耐震安全上問題ない**というご判断をいただいています。

専門の審査委員による現地調査の様子(S-1確認状況)[昭和63年1~2月] ▶



社外学識者からの見解

3人の社外学識者から、**当社の意見は、「妥当である」と**の見解をいただいています。

東京大学名誉教授(地質工学・地質学) 小島 圭二氏
元富士常葉大学学長(地質学・構造地質学) 徳山 明氏
首都大学東京教授(地震地質学・第四紀学・地形学) 山崎 晴雄氏

今後の流れ

- ① 8月10日 当社意見書提出
- ② 有識者によるピア・レビュー会合
- ③ 正式な評価書として原子力規制委員会に報告
- ④ 2号機の「新規制基準への適合性確認審査」で、本格的に国の審査が開始

今後は、2号機の「新規制基準への適合性確認審査」の場で審議されることになります。今回の意見書の内容やデータの拡充など、しっかりと説明し、「活動性はない」との当社評価をご理解いただけるよう取り組んでまいります。

北陸電力では、福島第一原子力発電所の事故による教訓等を踏まえ、さまざまな安全対策に取り組んでいます。



安全への強い思いを、一人ひとりがその胸に。

福島第一のような重大事故に至らないために



私たち北陸電力では、福島第一原子力発電所のような事故を起こさない決意のもと志賀原子力発電所の安全対策に全力で取り組んでいます。

志賀原子力発電所2号機における新規制基準への適合性確認に係る申請について



炉心損傷防止対策や電源車の配備、緊急時対策棟の設置など、新規制基準をクリアするとともに、志賀原子力発電所の安全性をより一層高める対策に継続的に取り組んでいます。

発電所を守る仕組み



万々に備えて安全対策を確実に実施できるように継続的に訓練を実施しています。

●各種訓練の実績(実施回数)

2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	合計
259回	487回	488回	467回	1,701回

詳細については当社ホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。 <http://www.rikuden.co.jp/anzentaisaku/>